

交通事故ゼロ社会をめざすHondaが踏み出す、先進安全技術の新たな一歩。 「自動運行装置」トラフィックジャムパイロット(渋滞運転機能)を実現。

Honda SENSING Eliteは、システムが周辺の交通状況を監視しながらドライバーに代わって運転操作を行うトラフィックジャムパイロット(渋滞運転機能)を実現した、Honda SENSINGのフラッグシップとなるシステムです。Hondaは

このシステムを、先進安全技術の新たな一歩と位置づけ、さらなる進化を図るとともに、安全運転支援技術の普及拡大をめざします。

■ 自動運行装置とは

「自動運行装置」は、2020年4月に施行された改正道路運送車両法において正式に規定されたもので、特定の走行環境条件内において、センサー類やコンピューターを用いて、自動車の操縦に必要な「認知・予測・判断・操作」を行う機能を有し、かつ、作動状態記録装置を備えるものです。自動運行装置搭載車のドライバーはハンズオフが可能となえ、システムが周辺の交通状況を監視しながらドライバーに代わって運転操作を行うため、ナビ画面での動画視聴などが可能となります。Honda SENSING Eliteが搭載するトラフィックジャムパイロット(渋滞運転機能)は、国土交通省が定める自動運転車の定義[官民ITS構想・ロードマップ2020(令和2年7月IT総合戦略本部(本部長内閣総理大臣)決定)にて規定]のレベル3に適合する自動運行装置であり、搭載車には、周囲に自動運行装置搭載車であることを示すステッカーを車体後部に貼付することが要請されます。

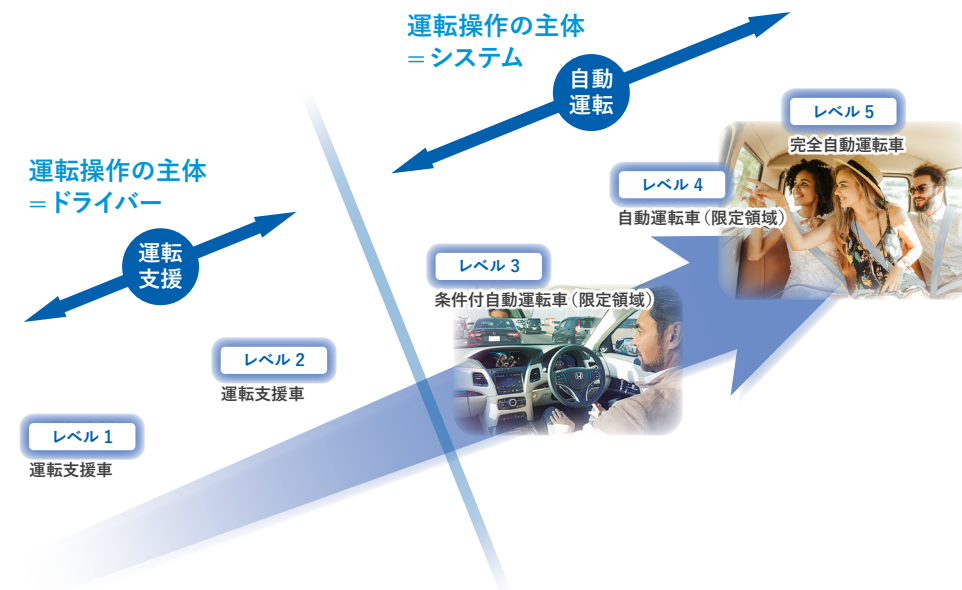


■ 名前の由来

Honda SENSING Eliteは、Honda SENSINGのなかでも、Elite(精鋭、優れた)であることを象徴する名前として命名されました。

■ 自動運転レベル3の意義

日本政府は自動運転のレベルを5つに分類・定義しています^{※1}。レベル1～2では、運転操作^{※2}の主体はあくまでもドライバーにあり、システムは運転支援に留まりますが、レベル3では高速道路渋滞時など特定の走行環境条件^{※3}を満たす限定された領域において、システムが周辺の交通状況を監視するとともにドライバーに代わって運転操作を行うことが可能となります^{※4}。



※1 SAE International(米国に拠点を置く自動車技術者協議会)の定義(J3016)に準拠。 ※2 車両の操縦のために必要な、認知、予測、判断及び操作の行為を行うこと。

※3 特定の走行環境条件とは、場所(高速道路のみ等)、天候(暗れのみ等)、速度など自動運転が可能な条件。この条件はシステムの性能によって異なる。

※4 システムが使用可能な条件から外れる場合は、警報を発して直ちにドライバーに運転交代をすることが求められます。